

# ペルセポリスを見る①

これから、**ペルセポリス**を見に行きましょう。アレクサンドロス大王に破壊された、**アケメネス朝ペルシア**の王宮あとです。

まず、イランに入国するのですが、パスポートだけ持ってふらっと行っても、入国できません。イラン政府が発行する**観光ビザ**が必要です。東京のイラン大使館の HP で申請書をダウンロードし、パスポート、手数料の振込書とともに送ります。1週間くらいでビザが貼られたパスポートが返送されてきます。これで準備 OK。



▲ イランの観光ビザ。

イラン航空の成田直行便は週2便ありますが、割高です。今回は、名古屋発・ドバイ経由のエミレーツ航空で行きました。ドバイまで9時間、テヘランまで2時間です。ドバイまでは日本人がたくさんいましたが、テヘラン行きに乗り換えると、日本人はほとんどいません。機内で女性たちはスカーフの着用を義務付けられます。イラン革命以後、この国ではイスラム法が厳格に適用され、外国人でも肌をあらわにしたり、女性が髪を見せたりすることは禁じられています。



▲ テヘラン空港のホメイニ像。イラン革命(1979)の最高指導者。

テヘラン空港に着きました。入管で、「どこに泊まるのか？」と聞かれました。予約したホテル名を言うと、すんなり通してくれました。さっそく両替です。イランは、**米国から「テロ支援国家」に指定され、経済制裁を受けています**。米国系のカード会社は、イランとの取引を禁じられ、**VISA カードも、MASTER カードも、American Express も使えません**。ですから常に現金を持ち歩かなければなりません。また、経済制裁に伴うインフレのため、**通貨リアル**の価値が下がっています。120ドル(1万4千円くらい)をリアルに両替したら、厚さ5センチぐらいの札束になって出てきたのであせりました。



▲ イランのリアル紙幣。顔は、全部ホメイニ。上から、2万、1万、5千、千リアル。

だいたいの感覚として、ゼロを2つ消すと日本円になります。よく使うのは緑色の**1万リアル**、**日本円で100円**くらいです。空港から市の中心部まで30分くらいタクシーに乗ると、5万リアル前後。大衆食堂で食事をすると、3万リアル前後。イラン人は正直で、1週間の滞在中、つり銭をだまされり、ぼったくられたことは一度もありませんでした。この辺が、「客をだますのは当たり前」のエジプトなんかとは違います。

ただしめんどうなの、通貨の単位がリアルとトマーンの2種類あることです。**1トマーン=10リアル**なので、「千トマーン」というのは実は「1万リアル」のことです。タクシーに乗ったとき、運転手が「3千」というので3千リアル渡すと、「違う、違う、3万リアルだ」という。一瞬、ぼったくりかと思いましたが、彼は最初「トマーン」で言っていたのです。ああ、ややこしい…空港や銀行、ホテルなど公的な場面では「リアル」を使いますが、タクシーや街中のレストラン、商店では「トマーン」を使います。要するに、一般庶民はトマーンで数えているようです。

ここから国内線に乗り換えて、南部の**シーラーズ**という街まで飛びます。イランの国内線はものすごく安くて、数千円で乗れます。さすがは石油大国です。上から見たイラン高原は、不毛の大地。山々はすべてはげ山です。そのところどころに、緑豊かなオアシス都市があります。生活はすべて地下水に支えられているようです。



▲ 上から見たイラン高原。

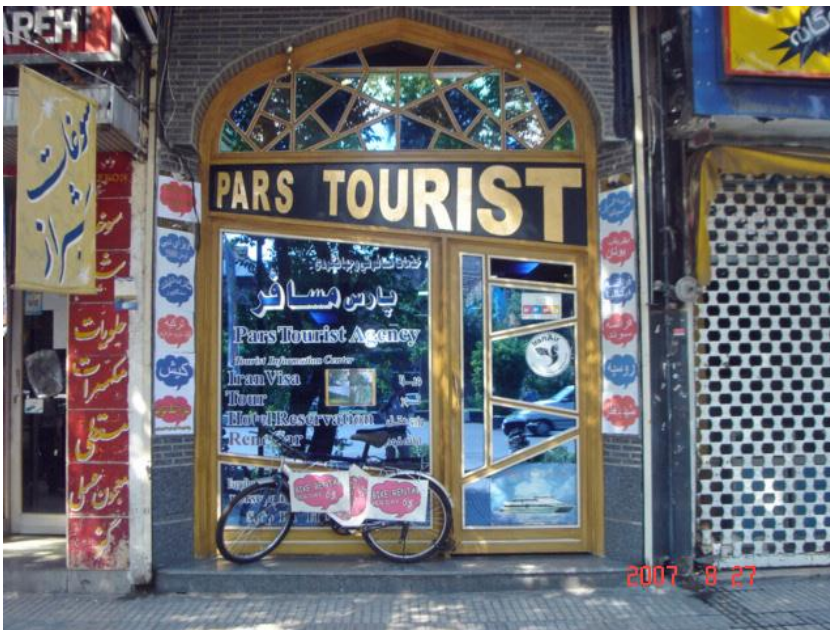


▲ シーラーズ空港についたイラン航空国内線。



▲ シーラーズの街。緑豊かでびっくりしました。暑いのですが、空気は乾ききっています。

このシーラーズが、ペルセポリス観光の拠点になります。遺跡は町からさらに数十キロ離れていて、列車もバスもありません。現地ツアーに参加するか、個人でタクシーを頼むか、ということになります。私は、現地ガイドの説明を聞いたかったので、ツアーに参加することにしました。



▲ シーラーズのツアー会社。英語ガイド付きの半日ツアーを、毎日やっています。

ペルセポリスのツアーは朝8時から午後2時まで。料金はたったの15ドルでした。「それでは明日、8時前にここにきてください」といわれて、一旦ホテルへ戻ります。

さあ、明日はいよいよ出発です。

(070906 更新)